

支店長の わがまち紹介 第88回



希望ヶ丘公園の菜の花と桜

小美玉市

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆様との密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。

今回は茨城県小美玉市です。石岡支店長が小美玉市長 島田 穰一氏にお話を伺いました。

小美玉市は第43回(2017年2月)の本コーナーでご紹介させていただきました。改めまして、小美玉市の魅力や特徴、展望についてお聞かせください。

(取材日:2020年8月19日)

■ ダイヤモンドのように光り輝くまち

「小美玉市」という市名には2つの意味が込められています。1つは旧小川町、旧美野里町、旧玉里村の2町1村から成り立つ歴史、もう1つは「小さく美しい玉」、つまり宝石です。そして、宝石の王様といえばダイヤモンドです。そこで、本市は「ダイヤモンドのように光り輝くまち」を目指し、総合戦略「ダイヤモンドシティ・プロジェクト」を策定しました。また、本市のイメージ戦略として霞ヶ浦から望む「ダイヤモンド筑波」を前面に押し出し、数々の施策を展開してまいりました。

平成30年3月に策定した第2次総合計画では、基本理念に「協働・連携、そしてチャレンジ」、「ふるさと・文化、そしてシビックプライド」、「人・もの・情報の交流、そして発信」を掲げ、「『ひともの地域』が輝きはばたくダイヤモンドシティ～見つける。みがく。光をあてる。～」をまちづくりの将来像として定め、将来像の実現に



小美玉市長 島田 穰一氏



石岡支店長 井坂 謙司

向け、市職員をはじめ、市民や各種団体、事業者など、多くの方の知恵や力を集結し、市内にある様々な魅力を掘り起こし、光を当てて輝けるよう、全力で取り組んでまいりました。

今後も「住んでみたい、住んでよかった、これからも住み続けたい」と思っただけの魅力あるまちづくりを目指し、果敢に挑戦してまいります。

■ 市民が本市の魅力を伝える「Watashi Omitama」

今年3月、市内情報誌「Watashi Omitama」が創刊されました。これは本市の魅力発信事業の1つでもあります。本市主催の「デザイナーと学ぶ、やさしいデザインラボ」講座(全5回)に参加した市民によって制作されました。

同講座では、3つのチームを作り、ワークショップを通してそれぞれ違うテーマを設定し、実際に取材や撮影、執筆を行い、何度もブラッシュアップして、このような素晴らしい冊子ができあがりました。

「Watashi Omitama」には、「私、小美玉」、「渡し、小美玉」という2つの意味が込められ、制作に携わった市民の「小美玉市の良さを伝えたい」、「まちづくりは自分たちの手で」という熱い想いが伝わってくる内容となっています。



Watashi Omitama vol.1

今後、市民がこの冊子を名刺の代わりに活用することで、多くの方に本市の良さが伝わってほしいと願っています。

■ 優れたシティプロモーションで日本一に輝く

本市は生乳生産量県内第1位を誇る酪農のまちです。早くから6次産業化に取り組み、小美玉産生乳100%の無添加ヨーグルト「おみたまヨーグルト」を作りあげました。現在は、生乳に付加価値を付けるだけでなく、地域振興や健康づくりにも活かされています。

さらに磨きをかける仕掛けとして、平成30年10月に開催した全国初の「第1回全国ヨーグルトサミットin小美玉」には、2日間で39,000人の方にご来場いただき、大変盛況のうちに終えることができました。



「第1回全国ヨーグルトサミットin小美玉」の様子

また、サミット開催に合わせて作成した動画「小美玉ヨーグルトストーリー」は、市民に本市の歴史ある酪農の特長を伝えるとともに、酪農家にさらに誇りをもってもらえることを願って作られた作品です。土と牛と人の共生を図る循環型酪農の優良事例である本市の酪農の魅力と新鮮で高品質な生乳を加工して作るヨーグルトが消費者のもとへ届く過程を丁寧に伝えています。

その素晴らしい出来映えは、平成31年の「全国広報コンクール」においても認められ、映像部門で特選「総務大臣賞」を受賞し、日本一の称号を手に入れました。市ホームページに掲載していますので、ぜひ、多くの方にご覧いただきたいと思えます。



「全国広報コンクール」で日本一に

さらに、全国の自治体を対象に福井県坂井市の伝統工芸品「越前織」で作った名札ストラップの



大賞を受賞したストラップ

デザイン案を募る「全国シティセールスデザインコンテスト2019」においても、本市の「ダイヤモンドシティ」のロゴを組み込んだデザインが大賞を受賞しました。

■ 教育環境の再編

平成27年1月、文部科学省は、わが国の少子化を理由に、公立小・中学校の適正な規模・配置を求める方針を示しました。それ以降、本市においても、義務教育の機会均等や水準の維持・向上の観点から、教育環境の再編と小中一貫教育の取り組みを進めています。

旧玉里村地域では、全ての小学校・中学校を統合し、令和3年4月に義務教育学校として開校します。さらに、旧小川町地域の2つの地区においても、小学校の統合と中学校の連携、小中学校の統合による義務教育学校の新設を進めています。

また、旧美野里町地域では、人口の増加による小学校の教室不足や老朽化を課題として、学校統合を含めた検討や取り組みが必要と考えています。

教育行政は、非常に重要な施策であることから、今後も教育を最優先としたまちづくりに取り組んでまいります。

■ 羽鳥駅の橋上化による利便性の向上

本市の陸の玄関口であるJR常磐線羽鳥駅では、平成20年以降、利用者の利便性向上を目的に、鉄道

とバスの結節機能を強化するとともに、橋上化やバリアフリーに対応した自由通路、駅前広場などを一体的に整備しており、来年3月に完成する予定です。

既に、駅周辺地区では人口が急増していますが、さらなる利便性の向上やまちの活性化に向け、駅東口の市有地に民間活力を導入した施設の誘致など、新たな取り組みを検討しています。



橋上化された羽鳥駅

■ 開港から10周年、年間80万人が利用する空港へ

本市に所在する茨城空港は、平成22年3月に航空自衛隊百里基地との共用空港として開港して以降、旅客数と就航路線を着実に増やし、今年で10周年を迎えました。昨年の利用者は80万人を超えるなど、「首都圏の第3空港」として、その役割を果たしています。

平成27年から、利用者のさらなる利便性向上を目的に、茨城県とともに空港へのアクセスの向上に取り組み、今年8月、常磐自動車道石岡小美玉スマートICと茨城空港を直結する「茨城空港アクセス道路」が一部区間で開通しました。来年初夏の全線開通後は、常磐道と茨城空港が約15分で結ばれる見込みです。また、岩間ICから茨城空港へ向かう道路も、今年度開通する予定です。

本市の中央に整備されるこの2本の道路は、地域の産業経済の発展、まちの活性化にも大きく寄与すると考えています。

道路が整備されることで企業が立地し、勤務地ができて収入が得られることで住宅が建ち、住宅街ができることで店舗も出店することでしょう。このように市内での暮らしがさらに便利になれば、移住・定住の促進、交流人口の拡大にもつながると期待しています。

このほか首都圏の第3空港である茨城空港は、災害時にはさらに重要な役割を担います。そのため、国土強靱化の観点から国道6号バイパスの整備が求められており、国において、調査が進められています。強く、しなやかな国・地域づくりのために、事業化に向けてしっかりと取り組んでまいります。

■ 飛行場と地域住民が共存する災害に強いまち

空港を活かした産業振興は重要度が高く、本市の魅力ある観光資源などの周知・PRを推進し、地元へ経済波及効果をもたらすと期待されています。そこで、本市は「小美玉まちづくり構想」を策定し、今年3月、国の補助事業として採択を受けました。

本構想は、第2次総合計画の基本理念をふまえて位置づけた「空の交流エリア」、「ゲートウェイエリア」、「空港アクセス沿道エリア」の3つのエリアにおいて、百里基地と茨城空港を核とした交流人口の拡大や地域振興の活性化、茨城空港と本市の認知度の向上、飛行場と地域住民が共存できる災害に強いまちを目指す事業です。

「ひとが輝き、街がきらめく、未来にはばたくゲートウェイシティ」を基本理念に掲げ、各エリアの基本目標を定めるとともに、エリア間の連携を図る上で最適な場所に、まちづくりの中核をなす「そらら拡張構想」、「そらら参道構想」、「エコトープ構想」、「Jフロント構想」（整備地は未定）を定めました。

今後、策定委員会での議論等を踏まえ、構想の実現に向け、検討を進めてまいります。



エリア全体の完成イメージ

■ 筑波銀行に期待することをお聞かせください

現在、新型コロナウイルス感染症の影響で経済が低迷しています。本市では国や県と連携した経済支援を実施しており、徐々に経済活動は再開していますが、筑波銀行においても、市内企業に対する融資や既存取引先へのさらなるサービスの提供、ご支援をお願いします。

また、あらゆる業種の方々とつながり、民間のニーズを把握している銀行の知恵や情報を共有させていただき、良好な関係を築いて一緒に地域の活性化に取り組んでいきたいと考えています。今後どうぞよろしくお願いいたします。

写真提供：小美玉市